

# 平成29年度 事業報告書

社会福祉法人 やまなみ会

(施設名) 特別養護老人ホームなでしこの里

ショートステイなでしこの里

なでしこデイサービスセンター

有料老人ホーム四季の杜

## 目 次

I	はじめに	1
II	全体状況報告	
	1. 重点項目（目標）に対する報告及び考察	1
	2. 施設整備状況	1
	3. 利用者状況	1～4
	4. 行事等	4～5
	5. 職員状況（①人員、②資格取得、③研修等）	5～7
III	1. 個別事業報告	
	特別養護老人ホームなでしこの里	7～8
	ショートステイなでしこの里	8
	なでしこデイサービスセンター	8
	有料老人ホーム四季の杜	9
	2. 各部署報告	
	看護部	9～11
	給食・栄養部	11
	3. 防火・防火訓練報告	11

## I はじめに

平成 28 年度の熊本震災で高齢者の避難場所として多くの方を受け入れて以来、なでしこの里についての認識が深まり、平成 29 年度の特別養護老人ホーム入所状況は年間を通して定員の 29 人でほぼ推移しました。ショートステイの平均利用率は 50%、デイサービス 72%で、特にショートステイでは、定員 8 名をオーバーするような利用希望もありました。このことから、産山村の高齢者がいつまでも住み慣れた産山村に住み続けたいという思いの実現になでしこの里は寄与出来ていると考えます。しかし、有料老人ホームでは、生活課題も浮き彫りとなり、生活支援に関して考えさせられた年でもありました。

## II 全体状況報告

### 1 重点項目（目標）に対する報告及び考察

平成 29 年度は、各ユニットで朝食を作る等の新たな試みや積極的に地域貢献に取り組むなど工夫した生活支援の推進に努めました。施設行事においては、利用者やその家族だけではなく地域住人の参加も多くあり、地域に密着した施設としての活動は、地域包括の一環としての役割を果たす事が出来たと考えます。

### 2 施設整備状況

平成 29 年度冬季は極度な低温となり、震災後修理したスプリンクラーが凍結で破損し再度修理しました。同時に、天井・非常灯・感知器等の修理が必要となり、熱線の再確認と調整を行い再発防止対応し来期に備える事としました。また、落雷によるエアコンの故障で買換えましたが、その他徐々に大型電化製品の故障等も出てきており買換えが必要な状況です。

### 3 利用者状況

#### ・事業所別利用者推移表

月	特養	通所	有料	月	特養	通所	有料
4月	31人	25人	11人	10月	29人	22人	12人
5月	29人	24人	11人	11月	29人	22人	12人
6月	29人	24人	11人	12月	29人	22人	13人
7月	29人	24人	11人	1月	29人	22人	11人
8月	29人	25人	12人	2月	28人	22人	10人
9月	29人	25人	12人	3月	28人	19人	10人

・入居状況としては、3月31日時点 28名（稼働率 97%）で推移しています。

#### 特別養護老人ホーム

#### ・介護度別利用状況（30年3月現在）

介護度	年齢別	
要介護 1	0人	60代 1人
要介護 2	1人	70代 2人
要介護 3	12人	80代 14人

要介護 4	12 人	90 代	11 人
要介護 5	3 人	100 代	0 人
平均介護度	3.6	平均年齢	87.8 歳

・面会状況 (平成 29 年度)

月	1 日平均	延べ人数	月	1 日平均	延べ人数
4 月	2.9	86	10 月	1.6	50
5 月	2.3	71	11 月	1.4	43
6 月	2.3	89	12 月	1.9	60
7 月	3.2	100	1 月	1.6	50
8 月	3.5	108	2 月	1.7	50
9 月	2.7	80	3 月	2.3	73

・利用者の外出、外泊状況 (平成 29 年度)

外泊 17 回/年                      外出 30 回/年

短期入所生活介護

・契約者数 24 名 (30 年 3 月現在) \*要支援者 1 名

介護度別		年齢別	
要支援 2	1 人		
要介護 1	3 人	60 代	0 人
要介護 2	7 人	70 代	1 人
要介護 3	10 人	80 代	11 人
要介護 4	3 人	90 代	12 人
要介護 5	0 人	100 代	0 人
平均介護度	2.6	平均	89.6 歳

・短期入所利用者推移表

月	要支援別 人 数		要介護度別 人 数					延人数	1 日 平均
	1	2	1	2	3	4	5		
H29. 4	0	1	0	5	1	1	0	81	2.7
5	0	0	1	5	1	2	0	70	2.3
6	0	0	3	5	2	2	0	104	3.5
7	0	1	0	5	4	2	0	135	4.5
8	0	0	1	4	4	2	0	133	4.4
9	0	0	1	4	5	1	0	138	4.6
10	0	0	1	5	3	3	0	152	5.1
11	0	1	0	4	2	2	0	120	4

12	0	0	0	6	4	2	0	150	5
H30.1	0	0	0	6	1	2	0	153	5.1
2	0	0	1	5	3	2	0	193	6.4
3	0	0	3	5	4	2	0	204	6.8

## デイサービス

### ・利用実績 1日平均利用人数

4月	8.8人	11月	7.7人
5月	9.3人	12月	8.0人
6月	9.9人	1月	8.4人
7月	10.0人	2月	8.0人
8月	8.7人	3月	7.4人
9月	9.5人		
10月	7.9人	平均	8.6人

### ・デイサービス登録者 数年間登録人数

4月	24人	11月	20人
5月	24人	12月	20人
6月	25人	1月	21人
7月	24人	2月	20人
8月	25人	3月	19人
9月	23人		
10月	21人	平均	22.2人

### ・デイサービス利用者利用状況（平成30年3月31日現在）

介護度		年齢別	
		60代	0人
		70代	1人
要介護1	9人	80代	9人
要介護2	5人	90代	8人
要介護3	1人	100代	0人
要介護4	0人		
要介護5	0人		
平均介護度 1.5		平均年齢 87.8	

## 有料老人ホーム 四季の杜

平成29年度の入居状況は4月から12月は11～12名、1月に入り10名となり3月末時点では9名となりました。

## ・男女別利用町村 利用者状況 (平成30年3月31日現在)

	産山村	阿蘇市	小国町	竹田市	福岡県	益城町
男性	0名	1名	0名	0名	1名	1名
女性	5名	1名	0名	0名	0名	0名

## ・介護度

自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
0名	0名	0名	4名	4名	1名	0名	0名

※平均介護度 1.5

## ・年齢

60歳未満	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳以上
0名	0名	1名	4名	4名	0名

※平均年齢 88.0歳

## ・介護サービス利用内訳 (延べ人数)

なでしこデイサービス	7名
デイサービスセンター ほっと館	2名
訪問介護	7名

## 4 年間行事報告 (特別養護老人ホーム)

月	行事内容
4月	・誕生日会、家族会総会、家族会主催野菜植えバーベキュー
5月	・誕生日会
6月	・誕生日会、外出
7月	・誕生日会
8月	・誕生日会、納涼祭
9月	・誕生日会、産山村敬老会、防災訓練
10月	・誕生日会、紅葉狩り、収穫祭、なでしこの里運動会
11月	・誕生日会
12月	・誕生日会、家族会主催忘年会餅つき、
1月	・誕生日会、どんどや、七草粥
2月	・誕生日会、節分
3月	・誕生日会、ひな祭り、防災訓練

## ・年間行事報告（認知症対応型通所介護）

月	行事内容
全体行事	夏祭り（8/25）、産山村敬老会（9/15） 収穫祭（11/10）、運動会（10/21）、忘年会兼クリスマス会（12/23） 村民文化祭（11/11）、幼稚園児交流会（12/5）
4月	花見（4/11～4/13）書道教室（4/7・4/24）
5月	すずらん見物（5/15～5/25）書道教室（5/1・5/15）
6月	書道教室（6/5・6/19）
7月	紫陽花見物（7/24～7/27）書道教室（7/3・7/24）
8月	夕涼み会（8/17～8/19）書道教室（8/28）買い物（8/31）
9月	彼岸花見物（9/19・9/25）敬老会（9/15）買い物（9/26）
10月	大吊橋見物（10/31）書道教室（10/23）
11月	大吊橋見物（11/2～11/6）書道教室（11/13・11/20）
12月	書道教室（12/11）
1月	初詣（1/15～1/18）書道教室（1/15・1/22）
2月	書道教室（2/23）
3月	岡城見物（3/12～3/15）書道教室（3/5・3/26）

※3ヶ月1回誕生会を実施しています

## 5 職員状況

## ① 人員

配置基準の職員数は確保できていますが、介護職員が特養 15 名、ショート 3 名であり、夜間を通して毎日の支援を行うにはぎりぎりの人員でした。女性職員の高年齢化傾向もあり人材確保は年々深刻となっています。

## ② 資格取得

平成 29 年度については、1 名のユニットリーダー資格取得、1 名の介護支援専門員の合格（現在研修中）でした。

職員有資格状況（30 年 3 月現在）

介護支援専門員	2 名	社会福祉主事	5 名
主任介護支援専門員	1 名	ホームヘルパー2 級	20 名
介護福祉士	8 名	ユニットリーダー	5 名
看護師	1 名	介護職員基礎研修	1 名
准看護師	3 名	栄養士	1 名

## ③ 職員研修等実績

## ・施設内研修

研修日	研修内容	参加数
4月19日	・平成29年度事業計画について ・接遇について	9名

5月17日	・記録の重要性について	11名
6月20日	・口腔ケア及び食中毒予防について	6名
7月19日	・非常災害時の対応及び防災訓練について	6名
8月15日	・身体拘束、虐待防止について	7名
9月13日	・緊急時急変時の対応について	8名
10月18日	・認知症とケアについて	9名
11月21日	・感染症予防について	9名
12月20日	・事故防止について	10名
1月24日	・高齢者におきやすい病気について	11名
2月21日	・事例検討	12名
3月20日	・終末期と看取りについて	8名

## ・施設外研修

研修日	研修内容	参加数
4月26日	1. 介護事故と介護リスク	1名
5月11日	1. 排泄セミナー2017 1日目(排泄ケアな一日を過ごしましょう) 2日目(おむつ外し)	2名
5月12日		
6月21日	1. 平成29年度介護サービス事業者等集団指導(通所介護)	1名
6月26日	2. 平成29年度介護サービス事業者等集団指導(短期入所)	2名
6月29日	3. 平成29年度九州老人福祉施設職員研究会事前打ち合わせ	1名
6月26日	4. 社会福祉法人監査説明会	1名
7月13日	1. 平成29年度九州老人福祉施設職員研究会	2名
7月14日	2. 平成29年度九州老人福祉施設職員研究会	3名
8月23日	1. 就職説明会	2名
9月19日	1. くもんマスター指定研修会「いいこと探し」	1名
9月25日	2. 有料老人ホーム 人権養護研修会	1名
9月26日	3. 平成29年度社会福祉法人労務研修会	1名
9月26日	4. 「排泄ケアと移乗介助とエトセトラ」	1名
10月12日	1. 「あなたやあなたの仲間の底力を引き出す5つのポイント」	2名
10月17日	3. 全国老人福祉施設研究会議	1名
10月18日	4. 全国老人福祉施設研究会議	1名
10月31日	5. 第2回福祉職員レクリエーション研修会	1名
11月13日	1. 平成29年度「福祉施設の為の苦情対応セミナー」	2名
11月16日	2. 平成29年度熊本県訪問介護等従事者研修事業介護技術演習	1名
11月28日	3. 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程初任者コース	1名
11月30日	4. 平成29年度熊本県介護施設等従事者権利擁護推進研修	1名
12月1日	1. ビジネスマナー研修会	1名
12月3日	2. 多様な住まいの場における看取りケア研修	2名
12月6日	3. 医療的ケア教員講習会(指導者研修)	1名



12月6日	4. 高齢者の姿勢作りを考える	1名
12月12日	5. 平成29年度福祉職場OJT推進研修会	1名
12月15日	6. 平成29年度熊本県有料老人ホーム等権利擁護推進研修	1名
12月17日	7. 多様な住まいの場における看取りケア研修	1名
12月21日	8. 介護職員初任者研修（10月30日開始分）	1名
1月16日	1. 平成29年度相談面接技術研修会	1名
1月17日	1. 平成29年度相談面接技術研修会	1名
2月19日	1. 職場リーダーの「伝える力」向上研修会	1名
2月20日	1. 職場リーダーの「伝える力」向上研修会	1名
3月6日	1. 第20回地域版事例検討会	1名
3月6日	2. 中堅職員育成のポイント	1名
3月7日	3. 「ブルーサークルメニュー試食会」	1名
3月14日	4. 平成30年度介護報酬改定説明会、ショートステイ、特別養護老人ホーム	1名
3月16日	5. 平成30年度介護報酬改定説明会 認知症対応型介護	1名

### Ⅲ 個別事業報告

#### 1 各事業

特別養護老人ホーム なでしこの里 定員 29名

##### (1) 事業の取組み

##### ① ユニットケアの充実について

昨年の事故の教訓を活かし、各ユニットで事故への意識を高める為の対策として、「事故継続日数表の作成」「事故報告書の読み取りと今後の対策」「身体拘束について」の研修等を行いました。その結果、平成29年度は、平成24年度の事故件数135件から半数以下の49件にまで減少しました。

##### ② 認知症ケア・生活支援の推進について

朝の離床から食事の時間や食事の量なども画一的にならない個別ケアを心がけ、その人のペースで1日を過ごしていただくよう努め家庭的な雰囲気を感じていただく工夫をしました。また、認知症の進行予防として刺激を多く感じてもらうために、外出や利用者個々の嗜好に合わせた誕生日企画（外食、外出、自宅への帰宅など）を行いました。

##### ③ 看取り介護について

3人の入所者について行いました。スタッフ一同しっかり関係者と連携を取りながら安楽に看取る事ができ、ご家族の方からも感謝の言葉をいただきました。

##### ④ 地域貢献について

軽減措置制度の実施の他、行政と協力し発足した介護家族の会では、職員が講師としてなでしこの里で講和を行いました。夏祭りや忘年会では、地域の方の催し物があり、老人会と家族会合同での門松づくりやどんどやの実施、家族会のジャガイモ・里芋等の植え付け、餅つき等の主体的な活動で参加者との親睦を深める事が出来ました。

また、高齢者の実態把握の実施、子供ヘルパー活動等の受け入れをしました。

(2) 課題・次年度への提起

ベッドからずり落ち大腿骨骨折による長期入院が1件ある等、事故防止対策として夜間の見守り対応等に課題が残りました。次年度は、これまで行ってきた取り組みは継続し、更に検証を行い日々利用者の方が安全で安心して暮らしていただけるようスタッフのレベルアップに努めて行きたいと考えます。

**ショートステイ なでしこの里 定員 併設8人**

(1) 事業の取組み

平成29年度は、緊急利用や特別養護老人ホームへの入所待機の間として等、様々な利用目的にも臨機応変に対応しました。また、新規利用者5名に対しては、継続利用して頂けるような援助・雰囲気作りに取り組み、独居の方で体調不良でやむなく利用された方からは、退所時に感謝のお手紙をいただくなど感激する事案もありました。

(2) 課題・次年度への提起

冬期に長期利用や緊急の受け入れ等、様々な理由での利用希望で調整が困難な依頼が増えています。行き場がない状態にならないようケアを実践しながら、利用者やその家族の望む生活が継続できるよう関係サービスと連携し対応を検討していきます。

**なでしこデイサービスセンター 定員12名**

(1) 事業の取組み

① 認知症進行防止のための支援について

利用者には3ヶ月毎にMMSEを測定・評価し認知症進行の確認をしました。認知症予防として、季節の外出や月2回の書道教室や料理等を実施し、作品は、村内の文化祭に展示し、会場へ行き地域参加・交流を深める事もできました。畑仕事では、地域の方と一緒に種植えや収穫作業する事で、交流しながら昔を思い出していただきました。

② 身体機能維持について

ロコモ体操（ロコモティブシンドローム）を、転倒のリスク削減の為に取り入れ実施しました。理学療法士や作業療法士を月2回招き、利用者の状態改善や意欲向上を図ると同時に、職員のレベルアップにつなげる事が出来ました。

③ なでしこデイサービスの周知活動について

広報「うぶやま」にデイサービスでの様子や活動の紹介を掲載し、熊本リハビリテーション病院の理学療法士より認知症コラムをシリーズで、村民向けに認知症の理解を深めるよう発信しました。

(2) 課題・次年度への提起

利用者の入所や、入院等、自宅生活の影響での利用維持困難は悩まされるところです。今後も、認知症対応型デイサービスへの理解を深め、なでしこデイサービスの利用効果を伝えていき、居宅介護支援事業所と連携しながら認知症予防に重点をおいたデイサービスの充実と認知症対策に寄与して行きたいと考えます。

## 有料老人ホーム 四季の杜 定員 12 名

### (1) 事業の取組み

#### ① 安心安全の住まいの提供と生活の支援について

入居以前の自宅生活に近い環境作りに努め、個人の昔からの慣れ親しんだ趣味や作業を日課に取り入れ、利用者・家族からの相談・要望・苦情には速やかに対応・処理できるよう努めました。衣・食・住の3要素を念頭に、安全に配慮した生活空間の最大利用を図り利用者の気持ちに寄り添いながら生活支援やサポートを行いました。

#### ② アクティビティについて

買い物ツアー（外出支援）を月に1回実施し、特別養護老人ホームの行事やデイサービスの行事と合同実施しました。

#### ④ 健康及び身体機能の向上のための支援について

月2～3回訪問診療を実施し、必要時は受診を行い早期発見・早期治療に努めましたが、春先にかけてインフルエンザ1名罹患、その他発熱が続きました。蔓延しないよう消毒の徹底、さらに居室の環境整備、清潔保持や室温調節・空気の入れ替え等実施し感染防止に努めました。入居者の高齢化に伴い介護度や認知機能の悪化や居室での転倒骨折もあり特別養護老人ホームへ入所、病院へ入院、死亡などで3月末時点では4室が空床となりました。

### (2) 課題・次年度の提起

四季の杜は、住宅型の有料老人ホームであり、常時介護が必要になれば、ショートステイを利用もしくは特別養護老人ホームへ入所され転出されるなど、継続した利用が出来ず十分な介護の提供には限界がありました。しかし、有料老人ホームの役割は大きく、独居生活・食生活不安など見守りが必要な方にはなくてはならない施設です。今後も市町村や居宅介護支援事業所と連携し、四季の杜の入居者の機能維持を図る事で、いつまでも元気で明るく過ごして頂けるよう努めていきます。

## 2 各部署報告

### 看護部

#### (1) 事業の取組み

##### ① 感染予防について

インフルエンザは、四季の杜入居者が1名、職員1名が罹患しましたが特養での発症はありませんでした。また、例年誤嚥性肺炎で入院される方が多く見られる事から、口腔ケアの周知徹底を行い就寝前と朝離床時はお茶でうがいをする等、誤嚥性肺炎の予防に努め、廊下の手すりやトイレなどには消毒を行い罹患の減少ができました。また、感染予防委員会を3ヶ月に1回開催するとともに、梅雨前に食中毒予防とインフルエンザ流行前に職員への研修会を実施し周知を徹底しました。

##### ② 早期発見について

入所者の健康管理について、年2回（8月・3月）の検診は昨年同様坂梨ハートクリニックで、胸部レントゲン撮影は福祉活動の一環としての協力により済生会予防医療センターで実施しました。ポータブルの撮影機器を施設内に持ち込んでの撮影で、

入所者、職員双方の負担軽減を図る事ができスムーズに実施できました。血液検査等検診結果は、主治医に報告し要精検、要指導等引き続きフォローアップしました。

### ③ 外来受診状況について

異常者は受診し検査する例が多く、特に10月は熱発者が多く病院受診が増加しました。義歯調整等は、きずな歯科の往診治療ができましたが、緊急や専門的な病気を有する人については、家族の協力を得ながら定期受診の機会を確保しました。平成29年度亡くなった方は、病院での死亡も含めて5名でした。入院となった病名は脳梗塞4名、肺炎2名、大腿骨骨折2名、延べ14名の方が入院治療を行いました。昨年多かった肺炎や骨折は減少しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
坂梨ハートクリニック	9	4	9	5	2	4	10	0	2	8	2	5
やまなみ HP			1			1			1			1
地域医療センター						2	1	1	1			
産山村診療所				1								
温泉 HP 整形		1										
温泉 HP 皮膚科			1									2
セントラル									1		1	
大阿蘇 HP 整形				1			2	1		1		1
大阿蘇 HP 内科			1		1							
日赤									2			
きずな歯科	3	5	4	2	2		1	2	4	1	2	4
眼科									1	1	1	1
阿蘇温泉病院内科											1	

### ⑤ 身体機能の維持向上について

介護職と連携しながら離床や着衣・排泄・口腔ケアなど自分でできる事は自分でするよう促し援助しました。機能訓練は、例年どおり毎月2回PTに依頼し訓練計画と評価を実施し、個々のケースについて相談しながら日課の計画を立て訓練を行いました。

### ⑥ 看取り介護について

看取りを行った方は3名で、家族の方が積極的に参加する事ができたケースは1例でした。また、麻薬パッチの痛みの緩和で、最後までアイスクリームや氷などを口に含み、笑顔で入浴されるなど、清潔に安楽に過ごしていただく事ができました。居室には花を活性好きな音楽を流し、穏やかな安らぎのある空間を作るよう心がけ、共に寄り添いながら看取る事が出来ました。看取り後のカンファレンスでは「ケアプランに沿って実施できたか」「本人の尊厳は守られたのか」「家族の思いはどうだったのか」について話し合いました。

## (2) 課題・次年度への提起

日頃より食事摂取状況をはじめ全身状態の把握を行い、家族と介護・看護職とのカンファレンスの場を持つようにしてきましたが、主治医とのカンファレンスの場の確保が困難でした。主治医へ電話連絡を頻回に行い、状況の報告や今後の治療方針について常に相談しながら緊急時での対応を行ってきましたが、入所者の健康管理については今後もタイムリーに関係者とのカンファレンスを行い課題を共有し、安心安全を目指し主治医へ理解を求めていきたいところです。また、面会の機会が少ない方については、看取りの同意書が間に合わず急激に悪化され亡くなる方もあり、こまめに状態を把握し連絡を取り合い同意をお願いしていきたいと思えます。

### 給食・栄養部報告

#### (1) 事業の取組み

##### ① 栄養管理について

エネルギーの見直しを図り、ビタミンA、たんぱく質、PFCパーセント比率に注意し、摂取基準に基づきバランスのとれた献立作成を心がけました。特に塩分は、心疾患や高血圧の利用者が多い事から6.9g以上にはならないように気をつけました。

##### ② 特養利用者の食事形態について

特養では、粗・小きざみ食8名、ソフト食2名、減塩食（透析通院）2名、経管栄養1名、四季の杜では、減塩食1名、デイでは、小刻みや汁ミキサー対応が2名でした。行事食やプレートに盛り付ける等変化のある食事提供を行い、配膳はできるだけ直前を心がけ温冷の適温に努めました。栄養部では、給食委員会（9月、11月）、嗜好調査（7月、12月）を実施し、「食べやすい」「食事が認知しやすい」「持ちやすい器」を検討しました。代替食の提供や水分摂取の為のゼリーの提供にも配慮しました。

##### ③ 衛生管理について

毎日の食材の次亜消毒に器具の消毒と乾燥、保存食の保管、月1回の検便を実施し、衛生と安全管理を徹底しました。

## (2) 課題・次年度への提起

健康維持と楽しみのための食事提供は、体調の変化により、献立の変更や食事形態の変更、介護食器の活用等が必要になります。食事中に食べ物を喉に詰まらせた事案もあり、その時々で適切な食事形態が望まれます。よりおいしく・より楽しく、また安全に食事ができるよう努めていきたいと思えます。

### 3 防災・防火訓練報告

避難経路、スプリンクラーの点検はもとより、出火原因となる要因を排除するため、厨房器具の点検・整備、及び漏電となりうる施設箇所の確認等、防火管理者をはじめとし、年2回（9月・3月）の防火訓練の実施と職員研修において緊急連絡網の周知徹底と緊急時における防災対策や風水害に対しての職員の意識向上に努めました。また、非常食の備蓄確認は、給食・栄養部で管理し、賞味期限一覧表活用にて随時補充を行い、備蓄食消費も期限内に行う事が出来ました。